

**令和5(2023)年度  
SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業  
【取組及び成果】**

**令和6年6月**

**文部科学省国際統括官付  
ユネスコ振興推進係**

## 学校法人芝浦工業大学



# インカレSDGsプロジェクト-異世代・地域・学校連携型で個別最適な学びと協働的な学びを同時に実現するSDGs達成活動-

### 事業概要

本プロジェクトは、学習指導要領で掲げられている個別最適な学びと協働的な学びを、異世代・多地域・学校連携型で同時に実現することを目指したものである。内容としては、A.課題研究支援（大学教員等による個別アドバイス）、B.合同実習・合同授業（企業見学、社会活動実践、複数の学校での遠隔授業）、C.合同実践発表会（探究活動成果報告の場）の三つの事業を行った。また、効果測定のために参加者と受け入れ先の双方に事後アンケート調査を行い、個別最適な学びの実現度を課題研究支援や社会貢献意識向上への寄与度で検証するとともに、協働的な学びの実現度を対話時間の多寡などにより実証した。

### 活動した地域

参加校の所在地は埼玉県、東京都、千葉県であり、訪問・連携先は宮城県、岡山県、沖縄県

### 具体的な取組と取組成果

A.課題研究支援は、六つの中学・高校で延べ80回の課題研究支援等を行った。また、B.合同実習・合同授業は、合同見学22、体験型社会活動13、創造型社会活動8の計43のプログラムに343人、延べ611人が参加した。さらにC.合同実践発表会は、約280名（芝浦工業大学生が約230名、高校生25名など）が参加した。事後アンケートからは約8割の参加者の課題研究支援や社会貢献意識向上に寄与したことから個別最適な学びに役立ったことが実証され、約8割が他校や他世代との対話が3分以上あったとの回答を得たことから、協働的な学びにも一定の成果があったと言える。一方、受け入れ側からも85%から「中高大学生の参加が役立った」との高評価を得た。

### 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

参加者に対する参加直後のアンケート調査結果では、課題研究影響度は、「大いに影響を与えた」「かなり影響を与えた」を合わせると72%、キャリアデザイン影響度は「大いに影響を与えた」「かなり影響を与えた」を合わせると52%、社会貢献意識は「大いに影響を与えた」「かなり影響を与えた」を合わせると82%となり、課題研究や社会貢献向上には大きな効果があったものの、キャリア意識向上への効果は限定的なものといえる。一方、本プロジェクトの目的の一つである他校や他世代との交流については、「たくさん話すことができた（概ね10分以上）」「かなり話すことができた（概ね3分以上10分未満）」を合わせると78%となり、またリピート意思については「強くそう思う」「そう思う」を合わせると77%に及ぶことから、参加者に合同実習の意義が認められたといえる。

### 事業の取組を公開しているホームページ等

<https://incollage-sdgs.site/>



左上：さいたま市立大宮国際中等学校における課題研究支援  
（令和6年2月7日）  
右上：IKEA新三郷店SDGsの取組見学  
（令和6年1月5日）  
左下：三島市水辺の清掃ボランティア体験  
（令和5年5月27-28日）  
右下：合同実習参加者のポスター発表  
（令和5年12月16日）

国立大学法人信州大学



ユネスコエコパークを核としたESD/SDGs実践カリキュラム開発支援と国際交流の促進

事業概要

SDGs達成のモデル地域として位置づけられるユネスコエコパーク（BR）では、ユネスコスクール等によってSDGsを意識したESD実践が行われている。これまでに、信州ESDコンソーシアムが主催する「成果発表&交流会」において、全国のBRでESD実践に取り組む学校間の交流が促進されるとともにBRを活用したESD/SDGs実践事例が蓄積されてきた。本事業ではこれを更に発展させ、国際的な交流機会を創出する。また、これまでに「成果発表&交流会」で蓄積されてきた実践事例を活用し、教師によるESD/SDGs実践カリキュラムの開発を支援する資料を作成・発信する。これらの取組を通じて、主に学校教育におけるESD/SDGs実践を推進し、SDG4の達成に貢献するとともに、持続可能な社会の創り手の育成を通じて、全てのSDGsの達成に寄与する。

活動した地域

長野県及び全国10サイトのBR地域

具体的な取組と取組成果

当年度は主に令和5年度「成果発表&交流会」の国際的な展開と、令和4年度成果発表&交流会の実践事例に基づく情報発信に取り組んだ。

成果発表&交流会では国際交流に向けた学校支援や働きかけを行い、国際交流枠の分科会を開催した。この分科会には、国内複数校とカンボジア王国スバイリエン州立教員養成校附属小学校が参加し、国際交流の機会が創出された。

また、地域や学校の特色を生かしたESD/SDGs実践カリキュラムの開発を支援するため、令和4年度の成果発表&交流会で発表された実践事例を冊子体にまとめ、全国BRの教育関係者等に配布し、またWebサイトで公開した。さらに、信州ESDコンソーシアムのホームページを改修して、発表事例の検索機能を実装し、教員がテーマなどからESD/SDGs実践事例を検索できるようにした。

事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

成果発表会の事例発表において、子どもたちは1年間の活動を通して、課題発見の力だけでなく、それを説明するための根拠をデータで示し、論理的に説明できるようになっていた。また、地域課題の抽出においては、データだけではなく、インタビュー等を通して地域理解や多様な人達と関わり、課題に取り組むことの重要性を実感できていたようであった。異なる学校種間の交流においても、積極的に質問や感想を述べるなどし、他の活動への興味関心の高さが伺え、自分事として捉えることや活動することの重要性を実感していたようであった。また、今回初めて実施した国際交流枠での海外学校との交流は、今後の国際的な学校間交流の促進につながる事が期待される。

事業の取組を公開しているホームページ等

- 信州ESDコンソーシアムホームページ <https://esd-nagano.org>
- 令和4年度 実践事例集 [https://esd-nagano.org/esd\\_wp/wp-content/uploads/2024/03/実践事例集2022.pdf](https://esd-nagano.org/esd_wp/wp-content/uploads/2024/03/実践事例集2022.pdf)
- 令和5年度 信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会 <https://esd-nagano.org/conference/introduction/2023/>



成果発表&交流会（国際交流枠）の様子

実践事例集

表紙

ページの例

## 国立大学法人静岡大学



## 社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発

## 事業概要

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に、社会教育（福岡県北九州市タカミヤ環境ミュージアム）と学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージを開発し、その成果を全国に発信する。また、環境系の行政、団体、企業等、新たなネットワークの構築を図り、ESDの更なる普及啓発を行う。

令和5年度は、①と②を実施し、NPO法人里山を考える会が考案・実践している「ミュージアムジャック」のブラッシュアップを図り、その成果を発信した。

- ① カリキュラムパッケージ「ミュージアムジャック」開発
- ② 「ミュージアムジャック」の発信

## 具体的な取組と取組成果

令和6年1月20日（土）福岡県北九州市タカミヤ環境ミュージアムで、「ESDフォーラムミュージアムジャック」を開催した。午前中のミュージアムジャックには107名が来場、午後のESDフォーラムは、学校教育、社会教育、行政、NPO法人、企業の方々（対面32名、オンライン256名）が参加、ミュージアムジャック（実践）、基調講演、実践報告、カリキュラムパッケージ試案をラウンドテーブルにてゲスト、参加者とともに検討した。

## 【成果物】

(1) カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック 2023（以下の3点で構成されている）

① 子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるためのカリキュラムパッケージ ミュージアムジャック2023

<https://knotworklab.com/data/2041/>

② ESDフォーラムミュージアムジャック報告書

<https://knotworklab.com/data/2038/>

③ ESDフォーラムミュージアムジャックビデオ（3分50秒）

<https://knotworklab.com/data/2039/>

(2) 事業評価会報告書 <https://knotworklab.com/data/2042/>

ビデオは、環境ミュージアムで随時上映、カリキュラムパッケージ、事業評価会報告書も配架されている。また、参加者への成果物案内後、徐々に感想等が寄せられている。

## 活動した地域

静岡県静岡市、福岡県北九州市、静岡県内市町

## 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

## ◆外部評価委員コメントの抜粋

児童の皆さんの動きは、各々の役割を理解して積極的に遂行し、その結果各自の動きが円滑であったように思いました。そこでは多少の戸惑いや唐突な事象への対応に出くわしながらも、自分であるいは仲間とともに解決していく姿が見られました。このような中で、児童にはプレゼンテーション能力の育成、仲間や見学者とのコミュニケーション能力の醸成、科学・技術に係わる基礎知識の獲得ができたと考えています。このことは、SDG4に即応するものと思われ、一方、先生には普段の画一的な授業や学校生活の中から、多様な能力や資質を有する児童の個別化・個性化教育への対応ができたものと推察します。

## 事業の取組を公開しているホームページ等

ネットワークラボ

<https://knotworklab.com/>

ネットワークラボ活動報告

<https://knotworklab.com/activity/>

ネットワークラボ公開資料

<https://knotworklab.com/data/>

※令和5年度以前のユネスコ活動費補助金事業、及びESD/SDGsに関する関連事業も掲載している。



ESDフォーラム ラウンドテーブルの様子

## 国立大学法人愛媛大学



### 概念型カリキュラムによるESD地域展開を支える4領域連携モデル

#### 事業概要

本事業は、「A 調べ学習ウェブ資料」「B 評価ウェブツール」「C 指導案・教材資料」「D 放課後SDGs教室」の4領域から構成され、ESDへの関心を高めた教師が、概念型のカリキュラムと単元を開発するための情報及び交流ネットワークを包括的に提供するための環境整備を、2年計画で進めるものである。令和5年度は、領域AとBについてはウェブシステムの構築とコンテンツ拡充、領域CについてはESD実践交流会の開催、領域Dについては子どもが主体となって地域でSDGs達成に向けて活動を展開するモデル学習単元の開発を放課後SDGs教室にて進めた。令和6年度にはこれらの成果を活用してユネスコスクールを中心に地域教育へと展開する。

#### 活動した地域

愛媛県：松山市、砥部町、西予市、宇和島市  
 京都府：亀岡市  
 北海道：黒松内町  
 インドネシア：ボゴール

#### 具体的な取組と取組成果

領域A（調べ学習ウェブ資料）では、ウェブ上に調べ学習用の資料をSDGsのゴールごとに公開することを狙い、「安心米」「アップサイクル」等の記事等を公開し、ESDを支援できる外部人材情報も掲載した。領域B（評価ウェブツール）では評価ツールの開発を狙い、ウェブシステムの実装を進めた。地域でのアクションを含む児童生徒の評価次元として、「協働的態度」「実行力」を抽出した。領域C（指導案・教材資料）ではESD関係者のネットワーキングを狙って、ESD実践交流会を開催し、多世代多領域の交流の場作りに成功した。領域D（放課後SDGs教室）では概念型ESDモデル単元の開発を狙って、7月～2月まで継続して教室等を開催し、指導案や教材を公開した。

#### 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

本事業で直接的に資質・能力の変化につながった取組は、ESD実践交流会と放課後SDGs教室（ワークショップも含む）である。ESD実践交流会では地方自治体、企業、高校生・高校教諭、中学校教諭、小学校教諭、大学生・教員、法人団体など様々な立場と世代から16件発表され、これまで個別に培われたネットワーク同士を相互に結びつけることができた。放課後SDGsでは、アップサイクルについて学んだことを活用し、愛媛大学クリスマスマーケットで自分の制作した商品の販売に取り組んだことによって、参加児童が自分のできることを探し、様々な工夫を凝らして問題を解決しようとする態度へと変容しつつあることが見て取れた。

#### 事業の取組を公開しているホームページ等

領域A <https://sdgs.esd-tools.site/gateway/> SDGsのとびら  
 領域B <https://sdgs.esd-tools.site/evaluationtool/> 評価ツール  
 領域C <https://sdgs.esd-tools.site/practice/> 授業実践交流  
 領域D <https://tomidalab.com/afterschool/> 放課後学習教室  
 （上記ウェブサイトの各当該領域のみが本事業に関わる部分）



領域A：インドネシアでのESD実践を紹介する教材動画



領域A・B・C：評価ツールを含むウェブサイトの画面



領域C：ESD実践交流会の様子



領域D：放課後学習教室の様子

## 国立大学法人北海道教育大学

### 過疎地のSDGsを推進するへき地教師教育力開発プログラムと学校力担い手育成事業

#### 事業概要

本事業は、全国的な過疎化・小規模校化の課題に対応するため、「へき地教師教育力開発プログラム」の実施により、へき地・小規模校に勤務する教師への支援を通して、“へき地性・小規模性”の教育課題をプラスに転換することで、「SDGs4 質の高い教育をみんなに」の目標達成に貢献するものである。

令和5年度は、過疎化・小規模校化が急速に進む北海道を拠点に、①教育委員会と連携した現職教員研修プログラムの実施、②へき地・小規模校教育推進フォーラムの開催、③教員研修動画の作成及び公開、④へき地・小規模校に勤務する教師の資質向上を図るための「へき地・小規模校教育CBT (Computer Based Training)」の開発などの事業を展開した。

#### 活動した地域

北海道教育委員会との緊密な連携により、北海道を拠点に事業を展開した。北海道以外の活動地域は、東京都利島村、台湾国立政治大学、国立台湾師範大学となる。

#### 具体的な取組と取組成果

へき地・小規模校において、指導が難しいとされる「体育」に焦点を当て、「どうしたらいい？へき地・小規模校の体育の教材・教具フォーラム」を開催し、参加者150人に少人数学級向けの体育授業の教材やアイデアを紹介した。参加者からは、「へき地校で勤務していて、自分が感じている難しさや課題について解決につながるポイントを教えてもらった」等の好評があった。

また、地域の担い手である教師を支援するために、へき地・小規模校の特性をプラスに生かす教育活動をまとめた「デジタル教材集」を発行し、学校等に周知した。

さらに、同校での勤務経験が少ない教師の実践的指導力向上を図るための「へき地・小規模校教育CBTの開発に着手した。

#### 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

小規模校における体育の教材・教具をテーマとしたフォーラムに参加した150人のうち、99.6%が「教材・教具の開発による事業実践についてヒントを得た」、97.9%が「過疎地のSDGsを推進するへき地・小規模校の可能性を捉えることができた」と回答している。また、フォーラムを通して、講師及びパネリストと参加者とのネットワークができたことにより、今後、各地域における教育実践の向上が期待される。

さらに、へき地校の校長の協力を得て、同校での勤務経験が少ない教師の実践的指導力向上を図るための「へき地・小規模校教育CBT」の開発に着手し、設問及び回答683問を完成させた。なお、本CBTは、令和6年度より、全国へき地教育研究連盟加盟校において活用される。

#### 事業の取組を公開しているホームページ等

[https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)

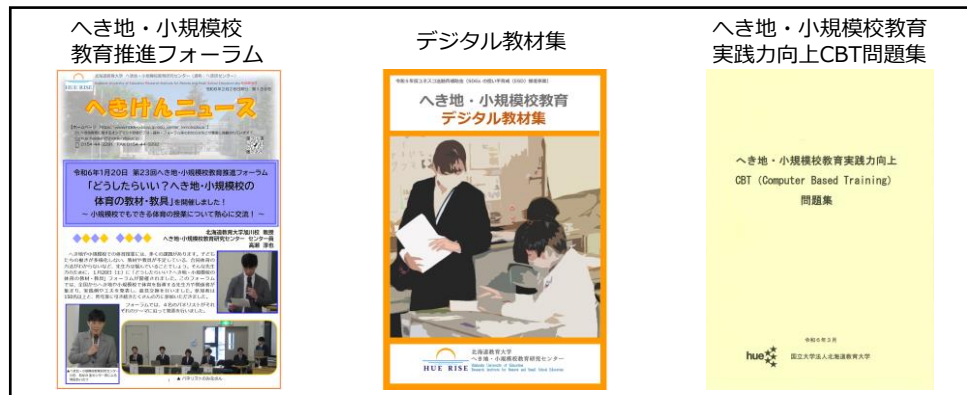
へき地・小規模校教育研究全般について掲載

[https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/public/movie.html](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/public/movie.html)

事業で開発した動画コンテンツを掲載

[https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/public/hekiken\\_news/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/public/hekiken_news/)

フォーラムの様子を掲載





## グローブスクールと連携したSDGs担い手育成のためのティーチャーズガイドの開発と活用モデルの構築・発信

### 事業概要

「グローブスクールと連携したSDGs担い手育成のためのティーチャーズガイドの開発と活用モデルの構築・発信」をテーマに、SDGsにより深く発展的に取り組むことができる「ティーチャーズガイド(中学・高校編)」を開発した。これにより、SDGsのためのティーチャーズガイドは小・中・高のパッケージが完成した。開発過程では、グローブティーチャー養成研修で活用するとともに、グローブスクールと連携し内容の充実化を図った。また、環境観測が重視されるSDGsのゴールに関する活用モデルを構築し、本学教育学部・教職大学院の授業で検証して質の向上を図り、全国の学校現場へ発信した。

### 活動した地域

全国(北海道、青森県、茨城県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、滋賀県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県)

### 具体的な取組と取組成果

「ティーチャーズガイド(中学・高校編)」では、理論編・実践編・応用編の項目あわせて38項目のモジュール型教材を開発した。また、環境観測との関連が重視されるSDGsのゴール6, 13, 14, 15を対象としたティーチャーズガイドの活用モデルを構築し、全国の学校現場に発信した。グローブティーチャー養成研修では、ティーチャーズガイドを活用した実践的な研修を実施し、SDGs達成の担い手となる18名のグローブティーチャーを養成した。GLOBEの科学的かつ世界共通の観測手法による継続的な観測活動や体験活動が学校教育におけるSDGs貢献に資することを提示し、実践的な学びの体系・方法を提供した。

### 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

SDGs達成の担い手となるグローブティーチャー養成研修への参加者を対象としたアンケート調査の結果、「実際に使う道具や手法を経験できたので、子供たちとの活動の展開について具体的にイメージできそうだと感じた」、「様々な学校での取り組み・事例を知ることができた」、「生徒だけでなく、地域を巻き込める可能性を感じた」、といったコメントがあった。研修を通じて、GLOBEプログラムの基礎や実際の観測手法について理解を深めたことで、調査する際の視点や実践への見通しを得るとともに、学校への導入・活用について検討してもらうことができた。一方で、参加教員からの懸念として、グローバル活動を行うにあたっての環境整備や教科・単元との関連付けなどに対するサポートが必要であることがわかったため、これらの要望を踏まえて新たなティーチャーズガイド(中学・高校編)を開発した。

### 事業の取組を公開しているホームページ等

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~globe/>



上写真：グローブティーチャー養成研修の様子  
左図：ティーチャーズガイドの例

## 国立大学法人金沢大学



## SDGs達成に向けたeラーニング教材開発及びコミュニティづくりによる教員等の専門能力開発

## 事業概要

「ESD for 2030」を実践する学校、教員等を対象とするeラーニング教材（実践編・教育経営編）の開発とその活用を、「教材制作協力者交流会」を軸に進めた。また、ESD・SDGsに関する最新の研究や内容等に関するライブの講義とディスカッションで構成するオンライン講座を開催し、事後のアーカイブ化も進めている。一方で、全国で開発されている類似の教育的リソースがあることから、全国の連携するコンソーシアムや大学、団体間で共有・共用できる環境を整えるよう準備している。これらのプロセスにも、ESD・SDGsに関する研修機会の創出、研修システムの開発ができるよう工夫を行った。これらの取組を通して、教員、研究者、学生等が主体的に学び合うコミュニティを形成することで教員等の専門能力開発に取り組んだ。

## 活動した地域

一義的には富山県、石川県及び福井県の市町村  
 なお、様々な機会を捉えて発表や周知を図ることにより、開発した教材や研修プログラム等の全国的な共有と共用を目指し活動した。

## 具体的な取組と取組成果

①「SDGs達成に向けたeラーニング教材（実践編・教育経営編）の開発」に関しては、教員、指導主事、園長、学生、ユネスコ協会、JICA北陸、エコプランふくい（NPO）など多様な制作協力者により、気候変動教育、国際交流、幼児教育など12本の教材が制作された。制作過程が授業デザインや制作者自身の授業観など学ぶ機会を提供できた。②「教員、学生、研究者等が主体的に学び合うオンライン講座の開催」については、北陸の課題であった気候変動教育、海外の学校との協働、幼児期のESDに関する講座を開催し、学校、保育園の実践と連動できた。③「eラーニング教材制作とオンライン講座を中核に教員や学生、研究者等が学び合うコミュニティの形成」については、現職の教員や保育士の参加が増え、北陸以外の国内、海外からの参加もあった。④「開発したeラーニング教材やオンライン講座などをアーカイブ化し、全国のESDコンソーシアムと互いの共有・共用を図る」については、五つのコンソーシアムが3回の連携会議を行い、来年度から開始する予定である。

## 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

- ◆教員等に見られた変化
  - ・「学習指導要領に基づきESDを推進する必要がある」ことについての理解は進んでいる。（改善）
  - ・「ESD推進の手引き」を活用する動きが進み始めている。（読んでいる割合が50%を超える）
  - ・授業実践に学ぶとともに、ESD、SDGs学習に関する基本的な理解や教師の専門能力に関する学びへの欲求が出てきた。（基本的かつ具体的で実践的）
  - ・ESD、SDGs学習としての価値を持つ地域学習が充実してきており、地域や企業との連携するカリキュラムマネジメント力はしっかり継承されている。
  - ・地域へのアンケート調査や専門家による出前授業や専門機関とつながる授業の重要性に気づき、先進的な授業デザインに挑戦している。
  - ・地域のSDの課題から世界とのつながりに気付いたり、地球規模で考えたりするカリキュラム・デザインの重要性に気づき始めている。

## 事業の取組を公開しているホームページ等

北陸ESD推進コンソーシアム <https://esd.w3.kanazawa-u.ac.jp/>



北陸ESD推進コンソーシアム成果報告会(2024年2月)における実践発表の様子



## 学校法人金沢工業大学



# ゲーミフィケーションを活用したSDGs教育に関する学習コミュニティの活性化と若者間での学びあいの機会の創出

## 事業概要

本事業では、「全ての小学生・中学生・高校生の主体的な学びを促す」、「全国の小学校・中学校・高等学校・学習塾へのカリキュラム提供」、「学生が自分で自分が進みたいと思う道を歩み、より人生を楽しめるようにすることを実現するために五つの柱を設定し、「Beyond SDGs人生ゲーム」をメインコンテンツとして活用した取組を展開した。具体的には、①学習コミュニティの拡大・活性化、②学習指導案の雛形の作成、③補助教材の作成、④行動変容のためのワークショップの開発、⑤若者の意見を発信する場の設定、他者を巻き込める若者の育成に関する取組を展開した。

## 活動した地域

本学の拠点である石川県、また、本学がSDGs展開支援を行っている広島県、沖縄県に加え、北海道、東京都、静岡県、兵庫県、岡山県を中心に全国47都道府県に広く展開を行った。

## 具体的な取組と取組成果

【取組①】全国9会場（8地域）でBeyond SDGs人生ゲームを活用したESD対面研修を実施

【取組①の成果】ESD七つの能力・態度全ての項目の向上に寄与した。また、生徒に対する教員の関わり方の変化や担当科目の授業と結びつけた変化が見られた。

【取組②】Beyond SDGs人生ゲーム補助教材の作成とBeyond SDGs人生ゲーム専用Webサイトの制作

【取組②の成果】「絆カード活用編」「革新カード活用編」「SDGsアクション手引き編」「SDGsアクション創出編」の4種の補助教材を制作し、専用のWebサイトから無償ダウンロードできるように環境を整えた。

【取組③】ゲーミフィケーションを用いたSDGsに関する授業カリキュラムの開発

【取組③の成果】本学が所在を置く石川県野々市市の市立菅原小学校と野々市市教育委員会と連携し、計26コマの授業カリキュラムを開発した。本学SDGs推進センターWebサイトから無償ダウンロードできるように環境を整えた。

## 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

Beyond SDGs人生ゲームを活用した対面研修の成果を評価すべく、ESD研修に参加した教員に対し、研修の前後でアンケートを取り、比較した。

アンケート結果より、二つのことが明らかとなった。一つ目は、研修前の意識が非常に高いという点である。ESDに関する知識や理解がなくとも、各能力や態度について、児童・生徒と関わる中で大切にしていることや、日々の教育で取り組んでいることがわかった。二つ目は、ESD対面研修は、ESD七つの能力・態度全ての項目の向上に寄与するという点である。また、研修後の変化として、生徒との関わり方の変化や担当科目の授業と結びつけた変化があった。さらに、教員が変化したことにより、児童・生徒にも意識、行動の変容が見られた。

## 事業の取組を公開しているホームページ等

- SDGs推進センター Webサイト  
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/>
- SDGs推進センター Beyond SDGs人生ゲーム専用Webサイト  
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/jinsei/>
- SDGs推進センター SDGsゲーミフィケーション教材導入のための冊子・動画教材掲載ページ  
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/education/tlm/booklet/esd-booklet.html>
- SDGs推進センター（小・中・高校 学習支援SDGs 学習教材(教員用)）  
[https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/education/support/material\\_teach.html](https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/education/support/material_teach.html)

イベント種別	実施回数(回)	参加人数(人)
ゲーム体験会及び研修(対面)	15	160
教員同士の交流会及び議論の場(オンライン)	1	8
成果発表会(対面・オンライン)	1	57
計	17	225



## より質の高い教育の達成を目指す包括的教員研修システムの構築

### 事業概要

本事業は教員免許更新制度に代わる研修の創造を目的として、持続可能な社会の担い手を育成する教員の資質・能力の育成を図るために、広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）と連携し、理論と実践をリンクさせて質の高い教員研修を計画し、広島県内の大学、教育委員会、NPO法人、民間企業、広島県ユネスコ連絡協議会、広島県ユネスコスクール連絡協議会等の多様なステークホルダーとの連携による教員研修会や授業づくりに関連したテーマによるセミナー等の開催と、過去の研修会やセミナーの録画の配信等による包括的教員研修システムの構築を図った。また、国内のESD/SDGs関連のコンソーシアムとのネットワークの構築を図った。

### 活動した地域

対面及びハイブリッド形式の研修会・セミナー・ワークショップは広島県内の教員や学生・院生などが参加者の中心であった。また、オンライン形式の研修会・セミナー・ワークショップは全国各地からの参加者を得た。

### 具体的な取組と取組成果

本事業は持続可能な社会の発展の担い手を育成する教師の資質能力を高める教師教育を目的とした事業である。SDGs達成のためには、多様なコンピテンシーの育成が必要であり、そのために教師教育（教員研修や教員養成）の質的向上が求められる。そこで本事業では、SDGs達成のための教師教育に取り組み、多様なコンピテンシーの育成を目的として2回の大規模研修会と6回のオンラインセミナーを開催し、アーカイブ化したコンテンツの配信などによるデジタルプラットフォームの構築を図った。ESDやSDGsに関連した教育の質を高めるための教員研修会、平和、防災、不平等社会の解消などの地球的課題に関連した授業づくりセミナーなど、広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）と連携し、理論と実践をリンクさせて質の高い多様で包括的な教員研修にした。

### 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

ESDやSDGsに関連した教育の質を高めるための教員研修会、授業づくりセミナーなど、資質・能力の育成を目的として多様な教員研修事業を実施した。

研修会ではできるだけ教育方法や教材研究の理論的な内容を企画し、7月の研修会では京都大学の松下佳代教授による「対話型論証を中心にしたディープ・アクティブラーニング」、12月の研修会では日本新たな学び方研究開発ネットワーク会長の西留安雄氏による「教えない授業」と千葉大学の阪上弘彬准教授による「持続可能な社会に向けたESDの役割」の講演と、教育現場からの実践報告を行い、SDGs達成の担い手に必要な資質・能力を育成するために授業方法の改善を図ったが、参加者から高い評価を頂いた。

- ・研修会 2回 のべ183名
- ・セミナー 6回 のべ600名
- ・アーカイブの配信 3回 のべ127名

各事業についてはアンケート調査を実施し、参加者の大半を占める小中高等学校の教員および教職を目指す大学院生・学生による高い評価を受けた。特に教員志望の院生（教職大学院の院生）の参加も増加した。

### 事業の取組を公開しているホームページ等

<https://unesco16.hiroshima-u.ac.jp/>



12月研修会での広島県立西条特別支援学校の生徒の皆さんと先生方による実践発表



オンラインセミナー「ウクライナから戦争と平和を考える」

## 横浜市教育委員会



# 「自ら学び 社会とつながり 共に未来を創る人」を育成するための、地域・社会との連携・協働に関する研究と成果の普及

### 事業概要

今年度もESD推進校を小中高等学校合わせて27校（ユネスコスクール含む）指定した。ESD推進校は多様なステークホルダーと連携・協働し、地域や社会の課題解決を通して、「持続可能な社会の創り手」の育成についての実践研究を行った。その際、横浜市ESD推進コンソーシアムの委員である学識経験者との協議会を通して得られた、最新のESDの動向や連携・協働に関する知見などをESD推進校に適宜フィードバックした。また、本市のキャリア教育実践プロジェクト事業である「はまっ子未来カンパニープロジェクト」との一体的な推進を図り、社会づくりの視点と自分づくり（キャリア教育）の視点から、本市の教育ビジョンに掲げている「自ら学び 社会とつながり とともに未来を創る人」の育成を目指した。

### 活動した地域

神奈川県横浜市、愛知県名古屋市、群馬県藤岡市

### 具体的な取組と取組成果

具体的な取組としては、ESD推進校の教職員情報交換会（6～11月）、よこはまの未来の作戦会議（6月、11月）、ESD推進校児童生徒オンライン交流会（7月、10月）、ステークホルダー交流会（夏休み・冬休み）、横浜市教育センター研究発表会「社会に開かれた教育課程における連携・協働の意義」（12月）、横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会 児童生徒の部・教職員の部（1月）、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」学習発表会 ～はまっ子が横浜の未来を語る会～（2月）で、意見交換やグループワーク、成果発表を行った。また、ESD推進校の実践研究を実践報告書にまとめ、全国のESD関係者に配付した。さらに、「第4回『ENGINE』in Nagoya」「第9回 群馬県ユネスコスクール研修会」に講師として登壇し、本市のESDの取組や「はまっ子未来カンパニープロジェクト」の成果について発信した。

### 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

児童生徒を対象に実施している横浜市生活・学習意識調査の「学習を通して見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決できると思いますか」という設問において肯定的な回答が、令和4年度は小学校4～6年生が平均69.3%、中学生が平均62.1%で、令和5年度は小学校4～6年生が平均70.4%、中学生が平均64.7%だった。令和5年度の方が令和4年度よりも小学校は1.1ポイント、中学校は2.6ポイント高い結果となった。「学習を通して見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決できる」という意識は、「予測困難な社会の変化に主体的に関わる」ことにつながり、これはSDGs達成の担い手に必要な資質・能力といえる。ユネスコスクールやESD推進校のみだけでなく本市全体として児童生徒の意識が向上した要因は、本事業の普及・浸透が一因だと考えられる。

### 事業の取組を公開しているホームページ等

- 2023年度横浜市教育センター研究発表会  
<https://www.accu.or.jp/news/20231127-2/> (ACCU)
- 2023年度横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会  
<https://www.accu.or.jp/news/20240119/> (ACCU)  
<https://esdcenter.jp/study/yokohamaesdsuisin2023/> (ESD活動支援センター)
- 2023年度横浜市ESD推進コンソーシアム実践報告書  
<https://www.unesco-school.mext.go.jp/information/we-issued-the-2023-implementation-report-of-the-esd-promotion-consortium-for-yokohama-city/> (ACCU)  
<https://esdcenter.jp/study/yokohamaesdsuisin2023houkoku/> (ESD活動支援センター)



ステークホルダー交流会



交流報告会（児童生徒の部）



第4回「ENGINE」

## 丹後万博開催実行委員会



### 高校生によるSDGsの祭典「丹後万博」の開催

#### 事業概要

「EXPO for SDGs」を掲げる大阪・関西万博に向けて、市域におけるSDGsの達成に向けた取組を加速させるとともに、先端技術の活用や環境問題への新たな挑戦など、地域課題の解決策を提示し、2030年のその先(+beyond)のまちの姿を考える機会とすることを目的に、将来世代が中心となって企画・運営するSDGsの祭典として「丹後万博」を開催した。

#### 活動した地域

京都府京丹後市

#### 具体的な取組と取組成果

市内高校の代表生徒、地域団体の参画のもとに丹後万博開催実行委員会を組織し、高校生によるSDGsの祭典として「丹後万博2023」を開催した。

当日は、高校生と地域の吹奏楽団、外国人市民がコラボした国際バンドの演奏や着物をリメイクして衣装を制作したファッションショー等のステージイベントの他、織物の切れ端や海岸漂着ごみを活用したアート作品の展示やペットボトルキャップを使った新しい遊びを体験するブースなど、高校生が探求学習の時間等を活用して、企業、団体等の協力を得て準備を進めてきた多彩なコンテンツを提供。約2,500人が来場し、SDGsの達成に向けた機運醸成に寄与したほか、高校生が主体的に企画・運営に携わることで、『SDGs推進人材』の育成にもつながった。

#### 事業により向上したSDGs達成の担い手に必要な資質・能力

実行委員会に参加する高校生20名は、丹後万博のテーマ・全体構成の企画立案、事業のプロモーション、イベントの企画・開催、当日の運営等、プロジェクトリーダーとしての役割を担い、実行委員会メンバー以外の高校生は開催趣旨、テーマに沿ったコンテンツを準備し、当日の運営に参加した。こうした一連の取組を通じて、

- 地球や地域の課題を自分事として捉え、一人一人ができることを考え実践する能力
  - 問題の背景、地域特性を理解し、多面的に考える能力
  - 他者の価値観を尊重しつつ、協調してプロジェクトを進めていく能力
  - 責任感を持って与えられた役割を果たす姿勢 など
- 持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の向上に資することができたと考えている。

#### 事業の取組を公開しているホームページ等

京丹後市SDGs特設サイトにて開催概要を紹介しています。

<https://kyotango-sdgs.jp/blog/668/>

